



## 宇宙開発フォーラム実行委員会 の活動を通して

東京大学教養学部理科二類1年

草木迫 司

私は「宇宙開発フォーラム実行委員会 (SDF: Space Development Forum Executive Committee)」という学生団体に所属しています。この春の大学入学時に SDF と出会ったので、私自身はメンバーになりまだ1年目ですが、今年の「宇宙開発フォーラム 2008」に向けての活動を通じて得たものを、皆さんにお伝えし、SDF について知っていただければと思います、寄稿のお話をお受けさせていただくに至りました。

SDF は、「文系と理系の融合」という理念をもとに、「法律」「政策」「ビジネス」といった、社会的科学的なアプローチから宇宙開発を考えようというコンセプトで 2002 年 11 月に設立され、今年で6年目を迎える学生団体です。首都圏のさまざまな大学から意欲ある学生約 20~30 名が集まって、週 1 回のペースで勉強会を開いており、法律や政策、ビジネスの基礎から宇宙開発の現状と課題といったトピックまで幅広く学び議論しています。そこで得た知識や考えのアウトプットの場として年 1 回参加型シンポジウム「宇宙開発フォーラム」を開催しており、今年の9月には東京大学キャンパス内で「宇宙開発フォーラム 2008」を開催いたしました。

さて、私と SDF の出会いは、大学入学時のサークルオリエンテーションでした。手元のパンフレットに「宇宙開発」の文字を見つけ、わくわくしながらブースに赴いたのです。そこで初めて、宇宙開発を社会科学的なアプローチで考えるという視点を得たのでした。常々、自分の好きなことをしながら、かつ世のため人のために何か役に立てることができないだろうかということを考えていた自分にとっては、宇宙開発の分野においてその両立の可能性や必要性があるのではないかと、SDF との出会いに運命的なものを感じたのでした。

SDF として活動する中で、宇宙開発に関わる企業の方や大学教授、学生などの様々な人とお会いする機会が多くあります。その中で、学部時代は工学部でロケットや人工衛星について学んでいながら、現在は大学院で経営・マネジメントを学んでいる方とお話をする機会がありました。その方は「宇宙開発に関わる人たちには夢追い人が多い。」という印象的な言葉を語った上で、自分が工学部で研究をしている時に、ロケットや人工衛星製造というプロジェクトにおいて、もっと効率が良く安定したマネジメントを導入する必要性を感じ、今こうして勉強しているとのことでした。

私はそれまで、幼少期からの宇宙への憧れだけをエネルギーにして生きているところがあって、それはまさに夢追い人であると同時に現実に対して盲目的な夢追い人でした。社会科学視点はおろか、人工衛星の用途もあまりよく知っていませんでした。

SDF で議論していることが今まさに宇宙開発分野で求められていることなのだと感じた瞬間でした。

今年には宇宙基本法が成立、施行したこともあり、宇宙開発フォーラムのテーマとしても「進化する、宇宙開発のフィールド。」を掲げ、現実に対応したホットな話題を扱いました。私は特に、プログラム中の法政策ワークショップの準備を担当していたのですが、こちらでは、宇宙産業振興を盛り込んだ宇宙基本計画策定の疑似体験の場を用意し、参加者に各関係省庁の官僚に扮してもらい未来の宇宙開発の在り方について考えていただきました。議論を進めていく中で、宇宙産業を振興するため実利用につながる開発に予算を注ぐべきであり、多大な予算を必要とする有人宇宙開発は中止すべきであるという意見が出ました。あくまで仮想現実における議論であり、いろいろな意見があると思いますが、個人的には一連の議論を通して、短期的なメリットと長期的なメリットの両方を常に考慮しなければならないことを強く感じるようになりました。

少々過激な議論や奇抜な発想も、学生だからこそできるということがあると感じます。知識も経験も未熟ではありますが今後とも学び考え続け、宇宙開発を多角的な視点から捉える機会を提供しつつ、学生だからこそできることをやっていきたいと思っています。

今まで宇宙の起源、誕生から今に至るまでの過程、ダークマターの存在、惑星探査といった基礎研究への関心一辺倒だった私でしたが、そうした興味分野の学問を専門として学び研究しながらも、考えを閉じることなく、今後は例えば今回のフォーラムで開催したビジネスワークショップで扱ったテーマのように、災害時等の非常事態にそのメリットを最大限に活かしたり、海外ブロードバンドを実現する重要なツールであったりする人工衛星、また衛星やロケットを対象とするビジネスにも目を向け、宇宙開発をうまく社会に活かす法や政策等、社会への直接の貢献度が大きいものにも注目していきたいと考えています。そうすればいずれは「現実を見据えた夢追い人」になれるのではないかと考えています。

# 宇宙開発フォーラム 2008 を終えて

宇宙開発フォーラム実行委員会 2008 年度代表

東京大学大学院工学系研究科修士課程1年荒堀真生子

2008年9月20日(土)～21日(日)にかけ、宇宙開発フォーラム2008を開催いたしました。延べ参加人数は、過去最多を記録し、224名の方にご参加いただき、大盛況のうちに終えることができました。

今年は、「進化する、宇宙開発のフィールド。」をテーマに開催したわけですが、私たち自身、未熟ながらも、「進化させたい」という想いのもと準備を進めてまいりました。

宇宙開発と利用の現状を探る各種セミナー、産業促進をうたう戦略本部での各省庁同士の議論を模擬した法政策ワークショップ、社会的背景からニーズを掘り起こし交渉によって最適な人工衛星を売買する現場を模擬したビジネスワークショップ、そして、両ワークショップで得ていただいた知見を踏まえ、真に社会の役に立つ宇宙開発とその利用を実現するために宇宙基本計画に盛り込み、かつ実践すべき具体的施策を探るパネルディスカッション…

「宇宙開発のフィールドを進化させたい」という想いを実現するひとつの形として、これらの各プログラムを多くの参加者の方々に体感していただき、そうした観点・問題意識を共有することができたのは、さまざまな面でサポートくださった皆様のおかげだと心から感謝しています。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、宇宙開発フォーラム2008にお越しくださり、こうした貴重な機会を与えてくださいました若菜様はじめ、関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますと共に、今後とも努力して活動を続けてまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2008年11月5日  
荒堀真生子・草木迫司

## (参考)イベント概要

- ― 日時： 2008年9月20日(土)21日(日)
- ― 場所： 武田ホール(東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル5F)
- ― 主催： 宇宙開発フォーラム(SDF)実行委員会
- ― 後援： 独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)
- ― 協力： 財団法人日本宇宙フォーラム(JSF)

- － 協賛企業： 日本衛星ビジネス協会、JSAT 株式会社、三菱電機株式会社
- － 協力企業： 日本スペースイメージング株式会社、日本電気株式会社(NEC)、  
日立マクセル株式会社、丸紅エアロスペース株式会社
- － URL： <http://www.sdfec.org/>
- － 参加者数： のべ 224 人(実績)